

一年生らを祝う 入学式や入所式相次ぐ

村内の各学校・各保育所で、四月に相次いで、入学式・入所式が行われました。

校で入学式があり、十一名が新たに中学生の仲間入りをしました。

四月七日には、各小学校で入学式を行い、洞爺小学校十名、成香小学校三名、香川小学校二名、大原小学校二名のあわせて十七名の新一年生が誕生しました。

また、四月八日は洞爺中学

太田校長は「大人へと歩み出す大切な期間、基礎知識をしっかり勉強するところです。」と中学生としての自覚を促していました。

さらに、四月九日には、洞爺高等学校で、二十九名の新

入生が入学式に臨みました。望月校長は、開校五十五年の伝統と生活ビジネス科を有する特色のある学校であると紹介し「あきらめずに、継続して学び、夢や希望の実現に努めてほしい。」と挨拶しました。

蓮井教育委員長は「卒業までに多様な資格を取得する生徒もいる。教科学習、集団生活等で日々努力し、能動的な姿勢で意義ある三年間を過ごしてほしい。」と激励しました。後藤PTA会長は「都会の

便利さはないが、豊かな自然と生活全般にわたり、遠方へも駆けつけ心細やかに援助、指導してくれる素晴らしい先生や指導者が揃っています。」と新入生や参列した父母らを祝福しました。

また、四月二日、洞爺保育所で、二十七名の子どもたちが、お母さんらとともに元気に入所式に臨みました。

桑原教育長から「先生たちがいろいろ教えてくれます。みんなで仲良く遊んでください。」と挨拶がありました。

洞爺小学校刑部校長からは「元氣よく挨拶しましょう、自分で着替えができるようになりましょう。」と励ましを受けました。

続いて、高台三地区の子どもが集まる、さくら保育所の入所式が、四月五日、大原ふるさと会館で行われました。

今年十五名の子どもたちを迎えた大原地区では、大原小学校の高丸校長が「皆さんが来るのを、地域の人たちがみんなが待っていました。」と歓迎の挨拶を述べ、手をつないだ絵を用意し「このように手をつなぐと、仲良くなれます。」と子どもたちに語りかけました。

そして洞爺村交通安全村民運動推進委員会より贈られた黄色い帽子を教育長から「車に気をつけてね。」と声をかけられながらかぶせてもらっていました。



保育所長より黄色い帽子を受取る（洞爺保育所）



来賓の話を聞く児童（さくら保育所）



式辞を述べる太田校長（洞爺中学校）



立ち上がって返事をする高校一年生